

【活動報告】星野高校新聞部から「働き方の変化」について取材を受けました



TRI ツナグ働き方研究所
TSUNAGU work style Research Institute

ツナググループのシンクタンクとして、調査・研究を行っています。

ツナグ働き方研究所は、多様な働き方と労働市場基盤整備を目的に変化する労働法制を分析し、企業に役立つ解説と提言を使命とするシンクタンクです。



ツナグ働き方研究所について

ツナググループを母体とする「多様な働き方」の調査研究機関（2015年設立）。研究所では、企業人事や労働法制の分野で活躍する識者らとともに、施行される労働法制の要所と着眼点を解説していくほか、改正に至るまでの経過や背景も記録・分析しながら「あるべき姿」を提言。「働く」を取り巻くあらゆる労働法制の調査・研究機関として「雇用の未来」を拓きます。

ツナググループ・ホールディングス 概要

日本の社会課題である「2030年労働需給GAP解消」を目指す、ソリューションカンパニーであるツナググループは、コンサルティング×RPO(採用代行)×データベースを基軸事業として、従業員1,000名を超える大手企業を中心にあらゆるソリューションを提供しております。



【略歴】ツナグ働き方研究所 所長 大野 博司

労政ジャーナリスト

兼 アドバンスニュース代表取締役（主筆）

1970年、青森県出身。中央大学大学院戦略経営研究科（MBA）修士。

1994年、日本新聞協会加盟の地方紙に入社。社会部と政経部で教育、スポーツ、水産、港湾物流などを担当し、2004年に報道デスクに就任。2005年に東京支社で国会取材兼論説委員。海外取材は韓国、中国、オーストラリアなど訪問。このほか、2006年のイタリア・トリノ五輪の現地取材を担当。2009年に人材ビジネス系月刊誌の編集部長に就任。2010年にインターネット報道を主体とする雇用労働の専門媒体・株式会社アドバンスニュース（日本インターネット報道協会加盟）の設立に参画し、現職は代表取締役（主筆）。

日本外国特派員協会会員の労政ジャーナリストとしてHR系雑誌に執筆・寄稿しているほか、NHKラジオ「Nらじ」やFMラジオ「J wave」などに出演して多様な働き方、地方の労働力、外国人就労などをテーマに解説。2013年はアメリカ・フロリダ州の雇用問題取材、2014年はオランダ政府招聘による欧州の雇用・労働関係取材、2015年は中国の香港・広州、2019年はベトナムをはじめアジアの雇用現場の現地取材に奔走。政治と省庁、人材ビジネスの最前線で先行取材をこなす。

出版

『派遣法・抜本改正の爪痕（キロク） 報道現場からの真実の叫び—淘汰と再編が加速する人材業界』（2016年アドバンスニュース）

『実務詳解 職業安定法（共著）』（2023年 弘文堂）



●定期発表レポート

月次労働市場データレポート

月次有効求人倍率速報

スポットワークマーケットレポート

●代表的なセミナー/出版活動

セミナー

『人材サービス事業を後押しする労働法制と業界地図
～派遣法見直しの舞台裏・労政審「同一部会」佳境へ～』

『派遣法2025 人材サービスを巡る「数字」と「法制」
～報道現場から解析する次なる展開と要所～』

『障害者雇用を巡る2027年の法制とメディアの姿～
事業者団体の意義と存在価値の考察～』

●取材・出演

NHK「Nらじ」 テーマ：スポットワークの広がり

FM「J wave」 テーマ：アルムナイについて

テレビ東京 テーマ：オフピーク定期券について

星野高等学校（埼玉県） テーマ：多様な働き方を考える

星野高校新聞部（埼玉県）から 「働き方の変化」について取材を受けました ～日本外国特派員協会で部員7人とディスカッション～

ツナグ働き方研究所（大野博司所長）は今春、埼玉県川越市にある星野高等学校の新聞部から「働き方の変化」をテーマに取材を受けました。

社会の動きに関心を持ち、向学心旺盛な生徒たちの意欲に応えるため、所長の大野が所属する公益社団法人・日本外国特派員協会（東京都千代田区）に部員7人を招き、活発なディスカッションを繰り広げました。



公益社団法人・日本外国特派員協会（東京都千代田区）

取材・ディスカッションの様子



星高新聞 (第209号)

このほど、新聞部の生徒たちが執筆した『星高新聞 第209号』が完成し、取材の記事が掲載されました。日本のジョブ型雇用の仕組みや課題、AI時代の働き方の変化、転職時代の背景などについて取材内容をまとめ上げ、『変容する労働のニーズ～多様化する日本の働き方』との見出しで記事化しています。

星高新聞 令和7年6月28日(土) (2)

変容する労働のニーズ

多様化する日本の働き方



働き方の希望を語る大野さん

近年、働く人々の働き方に関する意識が大きく変化しています。従来の終身雇用や年功序列といった働き方から、ジョブ型雇用やフリーランスなど、多様な働き方が求められています。この変化の背景には、AIの普及やグローバル化、働き手自身の価値観の変化などが挙げられます。

一方で、企業側も人材確保の難しさから、柔軟な働き方を導入する動きが加速しています。リモートワークの普及や、副業の解禁など、働き方の選択肢はますます広がっています。

しかし、多様な働き方が広がる一方で、労働者の権利保護や社会保障の整備が課題となっています。特に、非正規雇用やフリーランスの労働者は、安定した収入や福利厚生が不足している現状があります。

このように、働き方の変容は社会全体に大きな影響を与えています。企業と労働者の双方が、互いに理解し合い、協働して新しい働き方を創り出すことが求められています。

星高新聞では、この変容する労働のニーズについて、取材を通じてその実態や課題を調査し、読者にわかりやすく伝えることを目指しています。

星高新聞

川越市末広町3の9
星野高等学校
新聞部
電話 049(222)4488

主な記事

2025年入学式
1. 2年探究
新コース設定
変容する労働のニーズ

「ツナグ働き方研究所」と「星野高校」の取材後記

取材においては、特派員協会の記者会見室や会議室、図書ルーム、ダイニングルームなどを見学したほか、報道機関や記者の仕事、大学受験の話題にも広がり、ツナグ働き方研究所としても高校生たちの新鮮な意見や視点に触れることのできた有益な機会となりました。

『星高新聞』の発行にあたり、新聞部の生徒たちからは「近年の労働の事情を様々な観点から取材できたことで、星野高校の生徒にとって選択肢を広げ、将来について深く考えるきっかけになりました」「社会で働く経験をしたことのない私たちにとって、労働状況について率直な意見をうかがえて大変参考になりました」と綴られたお手紙を頂戴しました。

星野高等学校

概要：星野高等学校・星野学園中学校は、埼玉県川越市にある私立中学校・高等学校である。学校法人星野学園が運営する。星野高等学校には「女子部」と「共学部」があり、女子部は川越市末広町の末広キャンパスに、共学部は同市石原町の石原キャンパスにそれぞれ校舎を構える。

HP : https://www.hoshino.ac.jp/top_message



星野高等学校

多様な働き方の広がりの中で変化する労働法制を分析し、役立つ提言と解説を発信している「ツナグ働き方研究所」では、これからの社会を担う大学生や高校生たちの活動を応援・サポートする取り組みを展開していきます。



